

こらぼ大森・地域イベント掲示板

こらぼ de アート 3月15日～17日 こらぼ大森がアートでいっぱい アートでつながる人・地域・こらぼ

■日時 3月15日(木)、16日(金)、17日(土) 10:00～16:00

■場所 こらぼ大森 多目的室、軽食コーナー

■展示 絵画、イラスト、手芸作品、絵手紙、折り紙、写真、書 etc

こらぼ大森ご利用者の皆さんや地域の皆さん、子どもたちの作品を展示します。

■子どもワークショップ つくりながら不思議たんけん>

身近にある物でつくる 自分だけのホバークラフト

日時: 3月17日(土) 13:30～15:30 場所: こらぼ大森 多目的室

対象: 小学生(低学年の方は親子同伴のこと) 定員: 20名 参加費: 無料

詳しくは、こらぼ大森 HP またはこらぼ de アートの案内チラシをご覧ください。

■お問い合わせ・お申込み

電話: 03-5753-6560 Mail: cbc10286@nifty.com (こらぼ大森情報交流室 I・担当 森)



わたしと AI で曲をつくろう

人工知能で曲をつくろう!

出来上がった曲は CD でお持ち帰り可!

■日時: 3月18日(日) 10:00～12:00

■場所: こらぼ大森 2階 情報交流室 2

■費用: 大人 1000円 ※ドリンク代別途

■定員: 10組 20名 (先着順)

■対象: 小学生とその保護者

※小学生 1名につき要大人 1名以上同伴

■持ち物: 自分の耳に合ったイヤホン・ヘッドホン

■講師: 大谷紀子先生

(東京都市大学メディア情報学部 教授)

■主催: こらぼ大森

■お問い合わせ・お申込み 情報交流室 II

電話: 03-3763-7314

Mail: office@ota-organic-farm.com

①メール件名「わたしと AI で曲をつくろう」

②お名前(ふりがな) ③ご住所(郵便番号)

④年齢 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス

申込締切: 3月15日(または定員に達し次第)



まち工場見学会と交流会

子どもたちと考えるものづくりと福祉のまち

■日時: 3月17日(土) 13:00～17:00

■集合場所: こらぼ大森 いろいろルーム

■内容: (株)昭和製作所、(株)平川製作所(大森西二丁目)

工場見学とコマ対戦の交流

■募集定員: 16名(見学会は小学生のみ)

■参加料: 500円 ※コマ実費

■お問い合わせ・お申込み Mail: info@fuboren.net

イベント名、お名前、ご住所&連絡先、学校名(学年)

保護者のお名前(同伴の場合)

■主催: おおもり・まちづくり協議会

共催: NPO 法人大森コラボレーション

後援: おおた区民活動団体連絡会



発行: こらぼ大森ニュース編集委員会

TEL/FAX: 03-5753-6560

E-mail: cbc10286@nifty.com

URL: http://collabo-ohmori.com/

住所: 大田区大森西 2-16-2

大田区民活動支援施設大森【こらぼ大森】

こらぼ

大森ニュース 第29号

2018年3月1日 発行

- ひな人形を今年も飾りました
- ドローンの啓発活動に取り組んで
- わたしのボランティア・地域活動
- 本: 階上都市 津波被災地域を救う街づくり
- 掲示板「こらぼdeアート」「わたしとAIで曲をつくろう」



こらぼ大森
玄関口にて

ひな人形を今年も飾りました

桃の節句の由来をご存知でしょうか? 桃の花は元々、長寿のパワーがあるとされていました。中国で3月3日の節句(季節の節目)には、桃の花を漬けたお酒を飲み、桃の葉が入った風呂に入り、邪気祓いをしていたことに由来します。

こらぼ大森では、立派な七段ひな人形を地域の皆様のご協力を頂き、今年も飾ることが出来ました。ありがとうございます。春を迎えたやわらかな陽射しが、ひな人形たちをそっと包み込んでくれている気がします。

Lets' こらぼ



みなさんは、ドローンにどのようなイメージをお持ちですか？今年1月の草津白根山の噴火時の空撮は、記憶に新しい人も多いかと思います。こらぼ大森共同事務室入居団体で、国内でもまだ数少ないドローンの啓発活動に取り組む「東京ドローン研究会」のお話を事務局長の大山さんに伺いました。

ドローンの啓発活動に取り組んで

東京ドローン研究会 事務局長 大山 美帆さんのお話より

「東京ドローン研究会」は、大田区を中心に活動する地域団体です。ドローンの魅力と正しい使い方を子どもたちに教える啓発活動に取り組んでいます。

「一部のマナーが悪いユーザーによるドローンのイメージが、報道メディアの影響もあり世間に定着してしまったことは非常に残念です。世間のイメージとは別に、自然災害で立ち入りが出来そうにない場所にも機動力を活かして記録空撮を行うなど活躍しています」と大山さんは話してくれました。

国の規制により、ドローンの飛行できるエリアは都心部では限られています。区内の飛行許可を得た施設で日頃は練習を重ね、地方の河川敷などにドローンを飛ばしに行くこともあります。

「遠征ツアーにはおとなのサポーターが必須です。サポーターの中には子どもの頃に、ラジコンで遊べなかったお父さん、おじいちゃんたちが、子どもに連れられて一緒にドローンの面白さに魅せられて、関わってくれる人もいます」この活動の楽しさの一つに、世代を越えて楽しめることがあるようです。



▲おたオープンファクトリーでの出展の様子

子どもも含めて、楽しみ方も人それぞれです。飛ばすのが好きな人。見るのが好きな人。機体をいじるのが好きな人。それぞれがそれぞれの楽しみ方で関わることができることも活動の面白さのようです。

改めて大山さんにとって、ドローンや活動の魅力は何でしょうか？

「実はドローンを飛ばすのは苦手なんです。ドローンを飛ばしているときに子どもが空を見上げる顔がほほえましくて、ですね。今後の活動をさらにすすめ、来年度には単独イベントを開催したいです」と、静かな中にも力強く話してくださいました。

わたしのボランティア活動・地域活動

芝生・園芸ボランティア 菅田常世さん・安藤亜矢子さんのお話より

こらぼ大森の芝生グラウンドの整備のサポートや園芸ボランティア活動に、数年前から関わっている菅田さんと安藤さん。みどり豊かな施設の緑の下の力持ちとして活躍しています。おふたりに、ボランティア活動の魅力などについて伺いました。

菅田さんは、「普段、お話しをする機会がないような年齢の人たちと交わることができるのが、ボランティア活動の楽しみ」とお話ししてくれました。どうしても自分に近い年齢や趣味の人との交流に限られがちでしたが、ボランティア活動に関わるいろいろな世代の人と出会いました。ご本人は、自分のことを人見知りと話しますが、去年の夏の菊づくりボランティアでは高校生とたくさん話したことは良い思い出となったそうです。

安藤さんは、「ちゃんと見てくれている人がいて、意外な人から声をかけられるのがすごく嬉しいです」と話してくれました。最近も交流スペースのこらぼ大森のふれあいコーナーにいる時に「グラウンドを整備しているの見たよ、寒い中のに頑張ってるね」と声をかけてくれた人がいたそうです。その人とは、町でもすれ違う時に挨拶をする関係になりました。



▲菅田さんと安藤さん（右より）

最後に、おふたりにこれから地域でボランティア活動を始めようと考えている人にメッセージをいただきました。「とりあえず踏み出して関わるのもよいと思います。ボランティア活動に関わるうちに、楽しみが生まれると思います。こらぼ大森の活動に関わる人が、もっと増えると思うなと思っています。ぜひ私たちと一緒にボランティア活動しませんか？」



階上都市 津波被災地域を救う街づくり

～こらぼ大森2階の情報交流室1で貸出し中～

「NPO 法人建築・街づくり支援センター（大田区・中央）」の理事長 阿部寧さんの著作をご紹介します。東日本大震災後の被災復興の在り方に関して、専門家として本書で一石を投じました。津波時に建物のなかに設置してある階段を利用した避難を可能とする「階上都市」やコンパクトシティ構想など、これからの復興の指針を説きます。復興において人工的な街を設計することは、日常の生活圏を不用意に壊してしまう場合もあると指摘します。その他、建築の専門家ならではの視点で、まちづくりやコミュニティーの在り方について書かれています。



出版：三和書籍
編著：阿部 寧